



プレスリリース

一般社団法人 日本原子力学会

2011年3月11日に発生した東日本大震災において、多くの方々が犠牲となられ、また被災されたことについて心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

日本原子力学会は、社会的関心の高い科学技術である原子力の広範囲にわたる学術・技術専門家集団として社会への情報提供を行うため、本会の主要な活動等について、随時プレスリリースを行っています。

今回は、環境修復技術をわかりやすく紹介した説明資料の公表のお知らせです

「環境修復技術説明資料」の公表について

日本原子力学会「原子力安全」調査専門委員会クリーンアップ分科会（主査：井上正（財）電力中央研究所首席研究員）では避難されている住民の方々が少しでも早く自宅に戻れるようにするため、**家屋や庭および畑などから放射性物質を除去する除染の方法を技術的に説明した「環境修復技術説明資料」を作成し公表**しました。これから除染を実施する予定の住民の方々や自治体の方々の参考にしていただきたいと思います。

この資料には説明されている、建物（屋根・屋上、壁）、（屋内）及び生活用品、敷地や庭等、公共施設、水田、畑、果樹園、牧草地、森林、水域などの除染技術の一例を紹介します。

敷地、庭等の除染技術では、表土の削り取りとして、

◇表土を除去し、汚染物質を除去する

※除去深度は概ね2cm程度と考えられる。但し、最適な除去深度は汚染状況によって異なる。

※最適な除去深度の場合、除去率は、90～97%に達する（ID38, 39）

◇汚染物質の土壌鉛直方向（まっすぐ下）への移行速度は非常に遅い例が多い

※セシウムは、粘土質土壌の場合、表面から数cmの間に何年も留まっているため、汚染されて数年の間に実施するのが効果的である。

※花崗岩や粗粒質の土壌の場合、セシウムが留まっている量は少なくなる（ID38, 39）

◇庭など限られた範囲であれば、重機に限らずシャベルやくま手等で誰でも作業ができる。

◇必要以上に過度な表土除去は、汚染土壌が大量に発生し、問題がある。

※土壌や芝土が55～70kg/m²発生する（5cm除去の場合）。

◇多量の廃棄物が発生するため、廃棄物受け入れについての整備が必要である。

※文中のID番号はEURANOSハンドブックの除染技術データシートに対応

本資料の詳細は、日本原子力学会のホームページに掲載していますのでご覧ください。

<http://www.aesj.or.jp/information/fnpp201103/chousasenmoniinkai.html>

本件についての問合せ先

原子力学会事務局 クリーンアップ分科会担当

TEL: 03-3508-1261 E-mail: QandA_cu@aesj.or.jp